友の会事業活動から

平成29年度総会

5月12日（金）　参加者55名

平成29年度の友の会総会が5月12日（金）に開催されました。出席者55名、委任状提出者238名（3月末時点での会員数は580名）でした。

初めに鬼塚満壽彦代表世話人より「友の会は今年度で30周年を迎えるが、会員数が減少しているので、30年の灯を消さぬよう頑張りたい。会員皆様の協力を仰ぎさらなる充実を計りたい」と挨拶しました。来賓の酒井忠康美術館館長より「美術館は昨年一足早く30周年を迎え、工夫を凝らした企画を行った。今秋に館長特別講演会を依頼されているので準備中である」とご挨拶がありました。

さらに、河合岳夫副館長より「7月3日から1月12日まで6か月間の休館予定があり、これはシステム上の電気やエネルギーの有効利用を図る工事を行うためである。再開後はボストン展の大型企画展を予定しているので期待されたい」と説明がありました。

議事に入り、平成28年度の事業報告、決算報告および監査報告があり、さらに平成29年度の事業計画案および予算案について説明後、いずれも満場一致で原案どおり承認されました。また、世話人と監事は改選期を迎えたため候補者が紹介され、原案通り承認されました。

議事の中で、事業内容の質問や会員減少に伴う対策などにつき、参加者からご意見、ご要望がありましたが、貴重なご意見として今後の運営に活用したいとして総会を終えました。

鬼塚代表世話人と酒井館長ほか美術館幹部職員

世田谷美術館開館30周年記念植樹祭

3月24日（金）　世田谷美術館裏庭

平成29年3月24日（金）快晴のもと、世田谷美術館の開館30周年を記念し、友の会から「ヒメシャラ」の若木を寄贈する植樹祭が挙行されました。鬼塚満壽彦友の会代表世話人より贈呈の言葉が述べられ、酒井忠康美術館館長から御礼の挨拶をいただきました。引き続き美術館幹部や友の会世話人が集うなか、美術館裏庭にてお二人による植樹の鍬入れ式が行われました。世田谷区を代表して清水昭夫文化・芸術振興課長が列席される中、世田谷美術館と友の会の今後ますますの発展と、「ヒメシャラ」の若木がすくすく育つよう祈念し、出席者全員で記念写真を撮りました。

鍬入れ式

美術講座「フィレンツェのサンタ・クローチェ教会大礼拝堂壁画の修復」

講師：宮下孝晴（金沢大学名誉教授）

3月3日（金）　参加者118名

講演会の会場は満席でイタリア好きの美術愛好家の熱気に包まれました。

宮下氏の壮大なプロジェクトの発端は1999年。テレビ番組で講師としてフレスコ壁画を紹介したことでした。番組を見た篤志家が、イタリアの壁画修復と保存に2億円を投じたい、と申し出たのです。信じられない幸運。問題はイタリア全土に多数点在する劣化の進むフレスコ画のどれを選ぶのか。

熟慮の末、寄付者の意思を反映でき一定期間に成果を上げられるサンタ・クローチェ教会の壁画連作『聖十字架物語』（アーニョロ・ガッディ作）の修復を決断。フレスコ画の総面積は820㎡。イタリアでも最大級のプロジェクトは、サンタ・クローチェ教会と、氏が在職する金沢大学と、氏が信頼する恩師らのいるフィレンツェ修復研究所とで行われました。2004年、修復は数か月間に及ぶ建物と壁画の徹底調査から始まり、傷み具合に応じて熟練の技と最新技術を尽くし2011年に完成。宮下氏は国際プロジェクトを仕切る難しさと繊細で複雑なフレスコ画修復の様子をユーモアを交えて紹介されました。

（友の会事業部）

第24回 アート散歩

国立新美術館～森アーツセンターギャラリー

3月22日（水）　参加者19名

北村ハジム

開花一番が報じられた3月22日（水）、午前10時に国立新美術館内の会場前に集合してまず「**ミュシャ**展」から。アールヌーヴォー代表作家の一人ミュシャといえば、美しい女性像・華麗なポスター・装飾パネルが浮かぶ。が、彼は同時に、故郷チェコや彼のルーツ、スラブ民族のアイデンティティーをテーマにした作品も描いていた。

その集大成《スラヴ叙事詩》全20作の公開。スラヴ民族の誇りと哀しみが底に流れる縦横6.1×8.1mの大作に圧倒される。

まだ風の冷たい中を六本木ヒルズへ移動。中華料理店で昼食をとり、各自「**大エルミタージュ**美術館展」へ。とくに充実した収集といわれる16、17、18世紀の作品の展示のせいか、素晴らしい作品ばかり。女帝の顔からも天使の手足からも、透明感が匂い立ってきた。充実感のあふれるアート散歩でした。

国立新美術館でのミュシャ展

森アーツセンターギャラリー入口で全員集合

水彩画講座

講師：板倉美智子

4月21日・23日（金・日）　参加者13名

加藤千可子

4月21日（金）、23日（日）「水彩画講座」に初めて参加させて頂き、一日目は静物画、二日目は砧公園の風景画に取り組みました。学生時代以来、何十年ぶりかに絵筆をとり緊張して迎えた初日、何の考えもなく座ったテーブルにはガラスの水差しが置かれておりました。水と浮かぶレモンはキラキラと光り、光を描くのかと困惑から始まった講座でしたが、板倉先生の丁寧なご指導で、何とか2枚の絵を仕上げることが出来ました。

興味深かったのは、木漏れ日や光の表現として教えて頂いたマスキングという手法です。色を塗らない箇所をゴムのような液で描き、絵の具が乾いた後にゴムをはがすと、光のラインや点が現れ感動です。

時間が出来たらとなかなか描き始めることが出来ませんでしたが、今後は構えることなく絵を描いてみようと思っています。

銅版画講座

講師：浦辺佳奈枝

5月17日～ 6月2日（水・金）　全6回　参加者15名

堀田玉子

創作室の大きな立派なプレス機を本刷りのためにコトンコトンと回すその時間は、至福の時である。

講師の版画家浦辺佳奈枝先生のご指導で講座を受けることになり、いつの間にか早や10年が経ちます。右も左もわからない初心者の私は相変わらずですが、それでもここまで続けてこられているのも佳奈枝先生のバイタリティと繊細かつエネルギッシュなパワーでご指導頂いているお陰です。ビギナーの方もリピーターの方もわけ隔てなく私達一人一人の個性に合わせてやりたいもののイメージを捉まえて下さり、それに合った技法で一番良い表現法を的確に指導して下さるので、教室では真剣かつ和気あいあいと楽しい雰囲気で作業が進められていきます。この何事もスピードのIT時代に、この様に手間のかかる幾つもの工程を経ないとなかなか簡単には結果の出せない銅版画は、やればやるほど奥が深くて分からない事ばかりです。しかしだからこそ、この一筋縄ではいかない銅版画に惹かれるのかもしれません。これまでの作品は出来不出来は別として自分史の証の様です。

思い出の美術館

フィリップスコレクション

江並健一

数年前、高校時代の友人（男性です）と二人でワシントンD.C.を訪れた。お目当てはスミソニアン博物館（正確には、スミソニアン協会に属する16の博物館・美術館の総称）を見学することであったが、私にはもう一つの目的があった。それはフィリップスコレクションのルノアールの《舟遊びの昼食》を見ることであった。

油彩を始めてしばらくして、好きなこの絵を模写したことがあったが、実物を見てこの絵の大きさに驚いたことを覚えている（129.5×172.7cm）。美人の美術館のお姉さんに、この絵の前で写真も撮ってもらい感激も一入であった（写真撮影可）。

ワシントンには1週間ほど滞在し、毎日、博物館や美術を見て廻ったが、それでも半分くらいしか見ていない。勿論ナショナル・ギャラリーも素晴らしかった。

飛行場の滑走路のような広場（ナショナルモール。大統領就任式で群衆が集まるあの広場）の両側に博物館・美術館群（入館料は無料）が立ち並ぶ街は、世界中でもここだけではないだろうか。

フィリップスコレクションのある建物

みんなのギャラリー

ノンちゃん ―お気に入りのムートン―

笹倉温子

愛猫のノンちゃん10才の頃の作品です（第36回世田谷区民絵画展入選作品）。実家は江ノ島のお寿司屋さんで姉妹に育てられ、1才の時ひと目惚れして頂いて来ました。私の部屋を自分の部屋と思っており、食事がすむと2階に上がり椅子に座って待っています。特にムートンはお気に入りで、自分の身繕いと一緒に舐めていた程です。普段は黄色ですが、ある夜、ノンの澄んだ緑色の目に惹き込まれそうに思って描きました。母が何個も鈴をつけるので重たげです。今は17才。左目が少し白濁し、両耳の前の毛が白くなりましたが、太りもせず、夕食の時間に抱き上げると、食べるまで「ゴハーン」「ゴハーン」と何度もねだって可愛いいままです。

長生きしてね。

《愛猫ノンちゃん》

美術館・友の会共催　解説・鑑賞会

◎「花森安治の仕事―デザインする手、編集長の眼」展
解説：矢野進学芸員　2月21日（火）

NHKのドラマ「とと姉ちゃん」の放送や日曜美術館での紹介もあり、今回の展覧会は好評で来館者が土日では大幅に増加している。

花森安治の展覧会をなぜ世田谷美術館で行うことになったのか。最初の展覧会は世田谷文学館で開催された。その時、矢野学芸員が企画に携わり、暮しの手帖社や花森安治の娘さんとのご縁ができ、2回目は作品を世田谷美術館に寄贈されたこともあり、世田谷美術館の2階で収蔵品として全表紙画を展示。今回3回目の展示へとつながる。3回目はスペースも広く展示品は700点以上となる。

会場に入るとまずランプの絵がある。ランプは、花森が好んで描いたモチーフのひとつで、暮しを照らすというメッセージもあり、表紙絵にもたびたび登場し暮しの手帖社のシンボルマークになっている。花森の絵は、デザイン性が優れ、かつカワイイともいえるので、1回目の展示から若いデザイナーも多数関心を寄せ来館している。

衣食住をテーマにした雑誌『暮しの手帖』に花森が込めたメッセージは何か、またその編集長だった花森自身がどのような人物だったのか、その多彩な人柄を浮彫にしたいと矢野学芸員より解説があった。

◎「エリック・カール」展
解説：遠藤望学芸員　5月12日（金）

連日幅広い層の鑑賞者に楽しんでもらっている展覧会で、小さい子どもから、母親やファミリーなど通常にないお客さんでにぎわっている。好天に恵まれた連休中、多い日には未就学児童を含め約5,000人の来場者があるほどである。絵本作家の展覧会としては世田谷美術館はまことに適しており、砧公園とセットで自然をエインジョイしていただいていると思うとのこと。

絵本原画の魅力と家族連れで楽しむという構想で、充分この企画展が理解されていると思う。また、この展覧会は ①エリック・カールの世界、②作家としてのエリック・カールの紹介をめざしている。

動物・昆虫の作品が多いのも特徴で、特に「はらぺこあおむし」が有名である。ほかに「くまさん」「こおろぎ」「くも」「ナマケモノ」などが登場している。また、イソップなどの童話、ママ・パパ登場の絵本もある。なお、絵本以外にもオペラ「魔笛」のセットや衣装のデザインも手掛けており、広範囲な活動も紹介している。さらにエリック・カールは日本が大好きで今回が7回目の訪日であった。

世田谷美術館さくら祭
世田谷美術館・友の会共催
3月25・26日（土・日）

砧公園の桜も咲き始め、初日は好天に恵まれて人出も多く、美術館正面入口からクヌギ広場にかけて沢山の人が行き交いました。

世田谷美術館美術大学卒業生や友の会会員によるフリーマーケット、子どもたちに人気のワークショップ、川場村の物産店など種々のお店が並び、つい足を止めて覗き込んでしまいます。買い物をするともらえる抽選券で大当たりが続出、じゃらんじゃらんと鐘が鳴り響きました。レストラン「ル・ジャルダン」の模擬店で一休みをしていると、野外ライブからボリュームいっぱいのジャズ演奏が聞こえてきて、会場の雰囲気を一層楽しく盛り上げているようでした。

フリーマーケットの売上金の一部は「エイブル・アート・アワード」（障害のある人たちの創作活動を支援するプログラム）に寄付されます。友の会も売上金92,411円の約1割を寄付し、残りは29年度友の会基金に組み入れました。

皆さまのご協力で支えられたさくら祭、お陰様で今年も盛況となりました。

友の会バザー

PR／くじ引きコーナー

せたがや梅まつり
2月11日（土）

第40回せたがや梅まつりが、2月11日（土）から3月5日（日）まで羽根木公園で開催されました。今年は約650本の梅も開花が進み、2月11日は丁度見ごろとなりました。友の会はせたがや文化財団のブースでボランティア参加をしPR活動を行いました。

用意した資料のうち、子ども連れに大好評の「エリック・カール」展のチラシが人気を呼んで、瞬く間に配布完了となりました。

■美術館人事異動

世田谷美術館の新任の幹部職員の方の人事異動をお知らせいたします。

武藤哲総務担当マネージャー

■これからの事業予定

◎水墨画講座	6/7～30（水・金）全8回
◎美術講座	6/17（土）　講師：淀井彩子
◎アート散歩	7月下旬以降　竹中工務店施工建築物見学
◎初秋の美術館めぐり	9月下旬予定　岡田美術館～ポーラ美術館
◎分館ギャラリートーク	9月～11月予定
◎特別講演会	10/17（火）　講師：酒井忠康美術館館長
◎特別優待観覧	10月・11月予定　東京国立博物館「運慶」展など
◎フィレンツェ美術の旅	11月予定

世田谷美術館友の会に入会しませんか！
会員は世田谷美術館と分館の展覧会が年間無料で観覧でき、会員限定のイベントや実技講座への参加、友の会作品展への出品が出来ます。

申し込みは友の会事務局へ（詳細はホームページ参照）
Tel.03-3416-0607
http://setabi-tomonokai.jp/